

住友大阪セメント株式会社

<https://www.soc.co.jp/csr/csr11/>



《将来に向けた取組方針》

当社グループのセメント関連事業は石灰石や石炭などの地球資源を利用して事業を行う性質上、直接・間接を問わず、周辺の生態系に影響を及ぼす可能性があります。企業として事業を継続していくには、地球環境に配慮し生物多様性を保全していく事が必要不可欠と考え、「住友大阪セメントグループは地球環境と事業活動の調和を図り、環境負荷の少ない生産・発電・物流の追求を通じて、豊かな社会づくりと地球環境保全に貢献します。」という環境理念のもと、生物多様性の保護を積極的に推進します。

・ツシマヤマネコ保護活動

長崎県対馬市（舟志）地区に当社がセメント原料として粘土の採掘用地として取得しましたが、採掘されないまま、遊休地となった森林（約16ヘクタール）があります。ここに、絶滅危惧種である「ツシマヤマネコ」の生息が判明した為、2007年より地元対馬の方々と協力し、森林環境保護活動として間伐や餌となる小動物が食べる木の実が育つ広葉樹の植林を行っています。森を大きく育てることで、ツシマヤマネコの環境を生態系から整えています。



ツシマヤマネコ

・鉱山跡地の緑化

滋賀県米原市の伊吹鉱山では1971年から採掘跡地の緑化活動に取り組んでいます。現在、緑化の開始から既に50年が経過し、草木が自生をはじめ、植生した箇所には樹木が生えています。また、国内の他の鉱山でも、採掘跡地並びに集積場の緑化を推進しています。



藻場礁

・海洋製品の展開

地球温暖化などにより、水生生物の産卵や成育の場となる藻類が消失する「磯焼け」の対策として、藻場の再生を行う多機能型藻場増殖礁（K-hatリーフβ型）を開発しました。この製品の供給を通じ、海の生態系の保護を進めています。他にも高さ20mの大型漁礁（ハイブリット漁礁スーパーSK1300）を供給し、魚の乱獲を防ぎながら資源が増殖する仕組みつくりにも協力しています。